

明石市第2期SDGs未来都市計画(素案)について

本市は2020年(令和2年)7月にSDGs未来都市に選定され、同年8月に明石市SDGs未来都市計画を策定いたしました。今年度が同計画の最終年度になることから、第2期計画の素案を作成しましたので、報告いたします。

1 SDGs未来都市の概要

地方創生に向けたSDGsの取組を推進するため、内閣府がSDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を「SDGs未来都市」として選定しています。(現在154都市選定)

2 第1期SDGs未来都市計画について

(1) 計画策定の趣旨

SDGs未来都市に選定された自治体は、3か年のSDGsに関する取組を具体化したSDGs未来都市計画を策定し、その後も3年ごとに計画を策定する必要があります。

(2) 第1期SDGs未来都市計画(計画年度:2020年度~2022年度)の概要 ※資料1のとおり

(3) 第1期SDGs未来都市計画の進捗状況…詳細は資料2のとおり

① 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組

・こどもを核としたまちづくり、みんなにやさしいまちづくりの推進による人口増加。

② 自治体SDGsの推進に資する取組

・SDGsに積極的に取り組む市内事業者、市民団体を対象とした「あかしSDGsパートナーズ制度」の創設。

③ 特に注力する先導的取組

・コープこうべと連携した「おむつ定期便」による子育ての負担軽減と子どもの見守り。

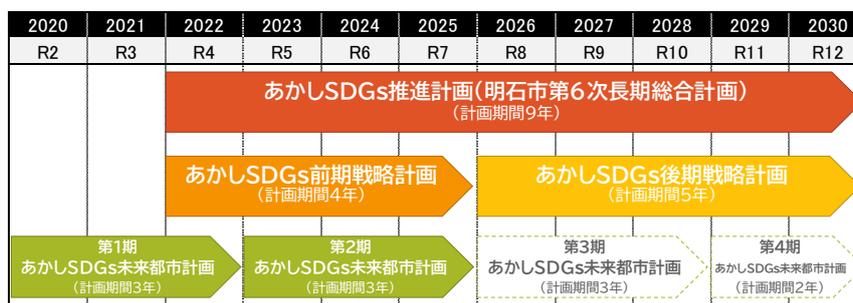
(4) 今後の課題(第2期計画へ引き継ぐ項目)

- ・近年激減しているマダコ・イカナゴの漁獲量を回復するための豊かで美しい海づくり
- ・人口増加に伴うさらなる待機児童対策

3 第2期SDGs未来都市計画(素案)について

(1) 計画策定の方向性

本年3月に策定した「あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)」及び「あかしSDGs前期戦略計画(明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期))」の考え方やKPI、施策等を反映します。



(2) 計画の概要 ※資料3のとおり

計画期間	2023年(令和5年)4月から2026年(令和8年)3月末まで
構成	<p>①将来ビジョン 地域の実態、2030年のあるべき姿、2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット</p> <p>②自治体SDGsの推進に資する取組 自治体SDGsの推進に資する取組、情報発信、普及展開性</p> <p>③推進体制 各種計画への反映、行政体内部の執行体制、ステークホルダーとの連携、自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等</p>
主な内容	<p>【2030年のあるべき姿】 SDGs未来安心都市・明石～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～</p> <p>【まちづくりにおける三側面の方向性】 SDGsの17の目標を包含する経済・社会・環境の三側面のまちづくりを総合的にバランスよく取り組むこと、さらには相乗効果を生み出せるように取り組むことで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるやさしいまちを実現する。</p> <p>【重点的な施策】 上記のまちづくりの方向性を支える5つの柱を設定し、施策を展開する。</p>

(3) あかしSDGs推進審議会での主な意見

- ・各取組のKPIについては、市民に分かりやすいものを設定する方が良い。
- ・経済の循環を表すKPIを置き、自律的好循環の形成に取り組むべきではないか。
- ・保育所の入所について、子育て世代から相談が多く寄せられているので、引き続き待機児童対策に取り組んでいただきたい。
- ・障害者に限らず、当事者の意見を聴きながらまちづくりを進めたからこそ人口増加に繋がったと思う。今後も継続的に当事者との意見交換をしながらまちづくりを進めてほしい。
- ・みんなが住みやすいまちになれば、産業も観光も活性化すると思う。まちづくりにはそんな横串が大切なのではないか。

(4) 計画(素案)等 資料4のとおり

4 今後のスケジュール

年 月	内 容
2022年12月	<ul style="list-style-type: none"> ・総務常任委員会で報告 ・内閣府へ素案提出
2023年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの実施
// 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・総務常任委員会で報告 ・策定・公表